



3月6日 野々市ロータリークラブ例会卓話にて講話させていただきました

ごあいさつ

令和6年3月7日

2月27日から市議会3月定例会が開会いたしました。その中で令和6年度当初予算案についてもご審議いただいております。

その予算案ですが、「安全安心なまちづくりの推進」、「SDG sの推進」、そして、「GX（グリーン転換の推進）」を重点ポイントとして編成し、一般会計の総額は、235億5,000万円と過去最高の規模となりました。

今回の能登半島地震を受け、避難所の機能強化として、学校体育館の空調整備なども予算計上させていただきました。市民の皆さんが安心していただけるよう、防災機能の一層の強化を図ってまいります。

SDG sの推進につきましては、「SDG s未来都市推進事業」を軸に、本市オリジナルのカードゲームを活用するなど、市民の皆さんが楽しみながらSDG sの課題解決について学べる施策などを展開してまいりたいと考えております。

そして、脱炭素社会の実現に向け、環境に配慮した住宅の普及や森林資源の循環利用を促進するための事業など、ゼロカーボンシティ宣言に基づいた施策に取り組んでまいります。

まちを歩くと開花したツバキに出会う季節となりました。木偏に春と書く「椿」は、まさに春の訪れを告げてくれることを感じます。

昭和49年、当時の野々市町が町花木にツバキを選定し、今年50周年を迎えます。この間、土地区画整理事業による市街地の形成とともに人口も増え、町から市へと大きな発展を遂げた野々市市ですが、その歩みの中で、ツバキはまちづくりの象徴として、その凛とした姿で、見守ってくれていたように思います。

市制施行とともにスタートした野々市市第一次総合計画では、ツバキが持つ十の美德「椿十徳」になぞらえてまちづくりを進めてまいりました。令和2年3月には、野々市中央公園が、国内では9番目、本州では初となる「国際優秀ツバキ園」に認定をいただいたことは記憶に新しいところです。

そのツバキの祭典である「花と緑ののいち椿まつり2024」が3月16日、17日に文化会館フォルテを主会場に開催されます。オープニングでは、「市花木ツバキ選定50周年記念式典」も行い、これまで椿の普及促進にご尽力いただきました関係の皆さんに感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

椿の花言葉は「誇り」です。これから先の未来も、市民の皆さんが誇りを持てるような野々市市であってほしいと願い、また、その努力も惜しみなく積み重ねてまいりたいと思っております。